自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2006 年 2 月

No.40

発行　／　アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

2006 年 2 月までの報告と予定

- ■　10月　泉南市より移動図書館車を受領
- ■　10月～2月　　月1回、本の梱包作業
- ■　11月　JICAプロジェクト学校訪問
- ■　12月　KZN州へ移動図書館車を4台送付
- ■　1月　　TAAA南ア代表帰国報告会とワークショップ
- ■　1月　　西ケープ州へ移動図書館車を1台送付
- ■　4月　　南ア･学校図書綱領発布記念　図書館車4台贈呈式予定

内容

南ア帰国報告会の講演より（平林薫）・・・・・・・・・２
中学生に南アでの活動を紹介（武藤豊）・・・・・・・・５
移動図書館車　京浜港搬入作業〈関根章博〉・・・・・６
ＴＡＡＡとわたし（野田千香子）・・・・・・・・・・・８
最近の活動紹介写真集・・・・・・・・・・・・・・・・９
アジア・アフリカと共に歩む会活動規範・・・・・・・１０
主な活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
寄付・会費・本などを下さった方々・・・・・・・・・・１２

移動図書館の本を読む　クワズールーナタール州のシルワネ小学校にて

2006 年１月９日報告会より

ＪＩＣＡ支援のエイズ・ピア学校教育と図書支援で変わる高校生たち

ＴＡＡＡ南ア事務所　代表
平林　薫

・南アの現状：貧困と失業

南アの経済は上昇しており、一見バブルのような感じもしますが、富は一握りの人々の手の中にあり、一般の人々はバブルの恩恵にはあずかれません。一般市民の生活はますます苦しくなり、失業率も年々悪化しているような状況です。政府は雇用促進を唱えていますが、具体的な策は取られていないように感じます。

南アの抱えている問題は貧困と深いつながりをもっています。何とかして高校まで出ても職はなく、おばあさんの年金に頼ってぶらぶらしているうち、仲間と酒を飲み、麻薬を始め、犯罪に手を出していく。女の子は、子供への支給金をあてにして子供を生むこともあります。また働き口がないため売春をして、HIV に感染してしまうケースも見られます。

新しい政府の下で、大多数の黒人層をどう経済システムに組み込んでいくか、きちんとした整備をしないまま 10 年が過ぎ、いまや黒人層の中での格差もどんどん広がってきています。

・エイズピア教育と図書支援で変わる学校

シセベンジーレ高校では、プロジェクトの参加などをきっかけにして、校長、教師、生徒みんなの力で、学校がどんどん変わってきています。プロジェクトの最初のころ、指導員のノントレさんも“校長が活動に積極的でない”と話していました。しかしワークショップに参加後、ピア教師たちに詩や劇を作らせ、全校生徒の前で発表させたり積極的にピア教育を取り入れた結果、ムドゥルリ校長は昨年末、大きな成果を認めていました。“コミュニティーも含めたエイズデーの開催、TAAA の野田代表、関根さん、河合塾の宮崎さんの遠方からの訪問、河合塾から寄贈され

シセベンジーレ高校の図書室

た本のサブリーダーとしての利用、学校巡回指導員の訪問、誰かがいつも見てくれている、自分たちの学校のために尽くしてくれる人たちがいる、教師も生徒もそれに応えるためにがんばらなければ、という気持ちになってきた”と話しています。この高校の卒業テストの合格率は、2003年度は５０％強であったのが、2004 年度は７０％を超え、2005 年度はさらにいい成績を残していると思われます。誇りを持てるようになったとき、生徒たちの生活態度や学習力が目に見えて向上していくという例だと思います。学校図書室の準備も整ってきています。ここでは古い机をリサイクルして丈夫な本棚を作り上げました。今回の学校訪問の際にも TAAA から送られた本と辞書を寄贈してきました。学校が少しずつ良くなっていくのを見るのは本当にうれしいことです。

ここに移動図書館車を！

最近クワズールーナタール州に到着したバス４台のうちの１台をンドゥエドゥエ周辺の学校に巡回させて欲しいと依頼しました。都市部から遠くないにもかかわらず、地域内の学校は“ただ存在するだけ”といえるほど、設備もリソースも乏しいのです。そのような環境の中でがんばっているシセベンジーレ高校のような学校を応援したいと思っています。

ピア教育で生徒が学んだこと

私たちが JICA からの支援で行ってきた HIV/AIDS のピア教育は、HIV/AIDS に関する正しい情報や知識を身につけさせることを目的としています。学校生活における基本的なこと、学校内をきれいにするとか、公共の設備を大切に使うとか、他人を思いやること、周りに惑わされず自分の判断で行動すること、自分を大切にすることなどをピア教育(生徒から生徒へ)によって伝えてきました。ピア教師たちは、ワークショップで学んだことをそれぞれの学校で伝える努力を十分にしてきたと思います。

生徒たちは麻薬を勧められ、断ると仲間はずれにされる、早く性体験をした方がかっこいいとか、周りに振り回されることが多いのです。そこで、ASSERTIVE、自分の意見をはっきり主張することと、DECISION MAKING、自分で決定することの重要性を学びました。女生徒たちが、自分のお母さんやおばあさんたちが置かれてきた状況を打開し、自立を目指そうとしている姿が印象的でした。ズールー人の社会は歴史的に男性優位の考えが強く、女性は男性に絶対服従のため、コンドームを使用して欲しいなどとは女性からは口にできなかったという状況が、HIV 蔓延の一つの原因ともなっています。

ELET の農業プロジェクト

・HIV/AIDS 関連

最新の調査で、女性の 15 歳から 24 歳の層での感染率が増加しているという結果が出ました。2002 年の調査では 12%だったのが、今回 16.9%に上昇しています。同世代の男性に比べて 4 倍も高い感染率です。地域的にはクワズールーナタール州、プマランガ州のスクウォッター(不法居住地域)に住む人々の感染率が高いとの結果が出ており、貧困との大きな相互関係があるようです。

栄養のあるものが食べられず、抗ウィルス薬を受けることもできなければ、身体は急速に衰えていきます。HIV の問題に対して私たちが支援できることは、学校やコミュニティーに対しての情報提供を続けていくことと、貧しい中でも人々が栄養のある食べ物をとることができるような方法を考え、実際に行っていくことだと思います。

・ELET 農業プロジェクト

ELET の代表マービン・オグル氏によると、アパルトヘイト政策の下ではあからさまに“黒人は知的労働には向かず、肉体的労働に従事するべきである”と言われたため、人々の間で、農業への嫌悪と政府への抵抗という意味で耕作をしない風潮が広がったといいます。また、ズールーの男子たるもの畑仕事などできるか、という伝統的な考え方もありました。政府が変わってもいまだに人々は農業に積極的に従事していません。

ELET が学校をベースに行っているコミュニティー農業プロジェクトは、農具と種や苗を準備して各校に配布し、ワークショップを開催して指導をした後、実地で訓練をします。学校の敷地内に菜園を作るのですが、畑仕事は地域の住民の有志が行います。収穫は学校の給食で使われ、地域住民も家庭で使い、次のシーズンの苗を確保した後、余った分は販売して換金します。クワズールーナタール州は気候や土壌がいいので、収穫は十分に期待できます。このプロジェクトは、地域の住民たちにも利益をもたらします。食べる物を自分たちで作れれば、年金を当てにされているおばあさんたちもたまには自分の服でも買うことができるようになるでしょう。

現在、学校菜園プロジェクトを小学校で行えれば、と考えています。生徒たちが学校給食で栄養のある野菜をとることができるし、学校で野菜の育て方を教わったら、家でも家族と小さい菜園を始めることもできます。自分の手で大切に作り育てれば、収穫という喜びがあることを学ぶことができます。

今、私たちが図書教育などを通して支援している子供たちが学校を卒業する頃には、以前よりは社会に出るための準備ができているようになると思います。しかし、その若者たちを受け入れる先がなければ、教育が無駄になってしまいます。政府には、具体的で効果のある雇用促進のプログラムを導入して欲しいと願っています。私たちも、教育をベースにできる限りのサポートを続けていきたいと考えています。自分たちはどうせ取り残されてしまっている、とあきらめかけている人々に“あきらめないでがんばろう”と励ましながら、一緒に活動していきたいと思っています。

写真左から　ELETの学校菜園、収穫物の販売、エイズ・ピア学校教育の指導員ノントレさん

中学生に南アでの活動を紹介

武　藤　　豊

昨年５月から約３ヶ月にわたり南アフリカを訪問して活動したことを地元の中学生に紹介してきました。場所は、私が在住している茨城県稲敷郡美浦村。地元の国際交流協会の協力により、母校である美浦中学校にて、学年毎に総合学習授業の一環としてスピーチしました。

１回目のスピーチは２年生が対象で、世界エイズデーの12月１日に実施。テーマもズバリ「南アフリカとエイズ問題」。南アでの現状やピアエイズ教育プロジェクトの話をしました。7 日には１年生を対象とした２回目のスピーチ。テーマは２年生と同じテーマですが、南アの学校の様子や３ヶ月間の活動を特に噛み砕いて説明しました。13 日の最終日は３年生が対象で、テーマは「南アフリカでの NGO 活動」。彼らの総合学習時間の年間テーマが「ボランティア活動」ということもあり、教育格差と移動図書館車プロジェクトの話、エイズとエイズピア教育プロジェクトの話、貧富格差と学校菜園活動の話をしてから、ボランティア活動に対する考え方を伝えてきました。写真を多く取り込んだスライドをメインに、蓮沼さんからお借りしたスクラップ記事、現地で入手したリーフレットや雑誌を交ぜ、教科書には無い内容のレジュメを作り、レジュメに書いていないことを約１時間一気に話しました。

今回このようなスピーチをして感じた点や得た収穫はこの文面に書ききれないほど沢山あります。特に印象に残った点は、全生徒が最後まで集中して聴いてくれたこと。そして、写真や資料などを見て様々な反応があったことです。これらの反応こそ、最も意義あるものと思います。そして集中して聞き入っていた彼らの眼差しは、移動図書館車活動で本を手にとって読んでいる生徒達と同じでした。最近の日本の子供たちは集中力が無いとよく言われており、それをとても懸念していたのですが、そんな偏見を持っていた自分が恥ずかしく思うと同時に逆に彼らの真摯な態度から色々学びました。

質問も色々と出ました。日本での寄付金はちゃんと使われているのか、これからどのよう形で活動に携わることが出来るのかという具体的な質問には、ズーマ元副大統領の汚職事件のような黒幕お役人事情を踏まえながら、ELET や MEI など南アでの経験や実績が豊富な NGO グループの活動を説明しました。また、なぜナミビアやボツワナとの国境が直線なのかという思いもつかない質問などもあり、結構面白かったですね。

今回の中学校訪問では担任だった恩師にばったり再会。そして久々の給食。懐かしい味でした。中学時代にタイムスリップすることができました。最後に、中学時代によく怒られたが今回の実施に当たり快諾して下さった現在の校長先生、実施に向けて色々と調整して下さった教頭先生や教務主任の先生並びに諸先生方、美浦村国際交流協会の皆様、そして前途有望な美浦中学校の後輩たちにこの場を借りてお礼を申し上げます。

母校の美浦中学校で話す筆者

エイズ・ピア学校教育の中のイベント　2005 年５月

～移動図書館車　京浜港搬入作業～

関根 章博

2005 年 12 月 26 日、南ア・ダーバンへ向けて移動図書館車4台を搬送。

４台同時に搬送するのはTAAA始まって以来の作業です。浅見さん、北爪さん、武藤さん、私（関根）の4人で搬送することになりました。A.M.8:00 に4人が浦和駅に集合し、移動図書館車が保管されている駐車場へ向かいました。浦和という住宅の密集した地域では4台も駐車スペースを確保するのは困難であることは容易に想像でき、だからこそ一気に4台を搬送しなければなりません！浅見さんから京浜港までのルートと搬入場所が書かれた地図が配られ、各自が運転していく移動図書館車のキーを手渡されます。自分が運転していく移動図書館車の前に立ち、概観をみるととても綺麗な車です。車内に入ると内装も汚れがなく、「これなら南アでもしっかり働いてくれるな！」という期待が沸いてきます。よし、エンジンスタート！とキーを回してみると私の車だけピクリともしません。バッテリーがあがっていました・・・。ブースターケーブルを取りに戻るハプニングがありましたが、気を取り直して4台が京浜港へ向けて発進！

４台が浦和の駐車場を出発し、近くのガソリンスタンドで給油をすませました。ルートでは外環にのる予定です。外環の川口中央インターに入ってすぐに、またやってしまいました。川口ジャンクションでS1（川口線）に行かなければならないところを、先頭を走っていた私がうっかり見過ごしてしまいました！バックミラーで武藤さんの車を見つつ「スイマセン！」と思いながら、外環を大回りして進んでいきます・・・。三郷ジャンクションから首都高に入り、すぐに八潮パーキングへ。ルートを間違えてしまい謝りつつ、再度ルートを検討します。どうやら大したロスにならずに済んだ様でホッとしました。小休憩後、首都高を走って湾岸線へ進みます。途中、渋滞につかまりましたが、羽田を通りすぎ大黒ふ頭の看板を目にして「もう少し！」と焦る気持ちとスピードを抑えます。大黒ふ頭出口から高速道を降りると、目の前に京浜港が。ゲートをくぐって入港の書類を書き、ついに到着しました！

京浜港に到着した4台

出航予定は、この報告を更新している今日12月31日。ダーバンへの到着予定は2006年1月19日。3週間の航海です。京浜港に到着したのは昼休みで、港は静かでした。搬入手続きは昼休みが終わる午後1時からということで、港の中をフラフラと歩いていました。移動図書館車が積まれる船はまだ港に入ってきていないようでしたが、周り一面に国産車がどこかへ輸出されるために整然と並んでいました。それらの車の目の前に、ビルと思っていた建造物がよく見ると船であったことにびっくりしました。こんな船に乗って南アに行くのか・・・。

車を運ぶ巨大な船（写真：商船三井提供）

巨大な船で輸出入されている現場を目の当たりにして、日本と海外は近くなったのだなぁとつくづく思います。普段何気なく買い物している野菜や果物、紙の原料になる木材など海外から様々なものを輸入しています。大量にモノを仕入れられることは便利で良いこととは思いますが、大量にモノを消費し大量のゴミを出してしまう社会になってしまったのだなと心配にもなります。無事、搬入された移動図書館車4台は日本でスクラップにならず、南アで元気に走り回り活躍してくれることを願います!!

インフォメーション・クリップ

- 昨年 11 月 27 日と 12 月 4 日にNHKBS2で、平林薫（TAAA南ア事務所代表）がコーディネーターとして関わったドキュメンタリー番組が放送された。一部はシリル・サンディーレさんがズールー人の青少年の間にサーフィンを育成していく話（この 2 年は平林さんもパートナーとして協力しています）。二部は、TAAAがJICAとの協力事業として関わっているンドゥエドゥエ地域の農業指導者と歌唱力抜群の少女の話。番組作成にはサンディーレさんもコーディネーターとして力を発揮しています。
- 本のご紹介：
  ① 林達雄　著「エイズとの闘い」（世界を変えた人々の声）　岩波ブックレット　480円
  新しい治療薬の開発によって不治の病ではなくなりつつあるエイズですが、多くの貧しい人たちは治療のチャンスがないまま、亡くなっている・・。
  ② 石　弘之著「子どもたちのアフリカ」（忘れられた大陸に希望の架け橋を）岩波書店　1700 円
  エイズで孤児になった子どもは 1100 万人。少年兵は 10 万人。毎年 20 万人の子どもが奴隷に・・。
  ③ 藤原　章生　著「絵はがきにされた少年」 集英社　1600 円
  著者は毎日新聞南ア支局長を 6 年勤めた。開高健ノンフィクション賞受賞。

第１回　TAAAとわたし

（1990 年～1992 年設立まで）

野田　千香子

1990 年はマンデラ前大統領が 27 年の獄中生活から解放された年であった。

私は学習塾で幼児から高校生までを相手に仕事をしていた。一方で、アフリカの飢餓、フィリピンの貧困問題、ハワイの土地買占めからの不動産高騰によるホームレスの増加・・・などの報道に接すると、日々、豊かな教育環境の中で、育っていく日本の子供たちの面倒を見ることだけに専念している私の心の中に、不整合な感覚が生じるのを感じていた。

1990 年の秋にマンデラさんが来日し、ニュースステーションで久米宏と握手した。大きな手、久米宏が「痛てて！」と言い、マンデラさんは「ワッハッハッハ」と笑い、久米宏も笑った。人を包み込むような上品で温かい笑顔に驚嘆した。

南アのアパルトヘイトが崩壊し、新生南アが生まれようとしている大きな動きにひきつけられ、私は週に一度、ANC 東京事務所でボランティア活動をする事にした。そこには、南アから亡命してきていたジェリー・マツィーラさん（現 EU 大使）が代表を務め、津山直子さん（現 JVC 南ア事務所代表）が忙しく働いていた。

1990 年から 1994 年（新政権誕生）の期間は、新政権への移行準備と交渉が、ANC と国民党とインカタ自由党などの間で行なわれる一方で、ANC とインカタとの間の流血の抗争も絶えない緊迫した数年であった。

東京の ANC 事務所は、反アパルトヘイト運動の拠点であった。書類でいっぱいの狭い部屋には反アパルトヘイトを支えてきた人たちや南アの活動家が出入りし、マツィーラさんは講演に出かける事が多かった。

1991 年暮れから翌年にかけて、代表のマツィーラさんの提案で南アに古着を集めて送るキャンペーンが行なわれた。私も近所に少し呼びかけてみると、たちまち、4 畳半が一杯になる衣類が集まった。現 TAAA 副代表の浅見克則さんが千葉の古着の倉庫へ何回か、運び、梱包作業にも参加した。「どうして古着が必要なのか、無関心のまま、片付いて良かったと思っている人もいるかもしれないから、一度、報告会をする責任があるのでは・・」という話になり、南アを訪れたばかりの別の NGO の大友深雪さんとマツィーラさんを講師にして南アの状況を知らせる講演会を行なった。

4 月の講演会を期して「アジア・アフリカと共に歩む会」Together with Africa and Asia Association（TAAA）の設立となった。6 月には、南アから来日した地域のリーダーを講師に 2 回目の講演会をさいたま市で行なった。このリーダーに英語の本の収集と送付を約束した事から TAAA のその後の活動が始まったのであった。（つづく）

最近の活動紹介写真集

マンドシ小学校に算数セットをプレゼントした。

KZN州教育省に移動図書館カレンダーを渡す。

センゾクーシェ小学校へ算数セットを渡した。
算数セットは本の箱の山の中から何とか 2 箱だけ見つけることができ、マンドシとセンゾクーシェに寄贈してきました。ペワ先生から“教育用おもちゃがあったら寄付してほしい”とリクエストをされたのが始まりだったので、彼女もとても感激していました。新学期が始まったら算数セットを使った授業を見に行きたいと思います。（平林　薫）

2005 年 12 月 3 日と 4 日、さいたま新都心アリーナで催された「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーンに参加。中央は「ほっとけない」事務局代表の林達雄さん。

「ほっとけない」活動に賛同したミュージシャン達（GLAY や MISIA 他）が声をあげ2日間のライブが行われた。観客動員は3万人！そんな中、TAAA もブースをお借りし、写真展示や活動案内のパンフレットを配布した。小雨まじりだったが、初日は夜の9時過ぎまで、がんばった。（西村裕子）

作業場で本の仕分けや梱包を行なうメンバー。この写真は、夏。首にタオルを巻いています。そして、今は冬。靴下を2枚履いたり、使い捨てカイロを足の裏に貼り付けたり、それでも寒い人は広げた段ボールを座布団の代わりに・・・
TAAA の作業は、南アの子供たちの笑顔を想像する嬉しさ。そしてこの場所に、毎月1回集う楽しさ。皆さんも是非、ご参加ください！　（西村裕子）

2006 年 1 月 1 日

アジア・アフリカと共に歩む会（ＴＡＡＡ）の活動規範

１．　南アの歴史的問題や現在抱えている難しい問題を「南ア国内のみの問題」とせず、「同じ世界に住む我々の問題」と認識し、「共にがんばろう」という気持ちで、現地のパートナーとの対等な関係を築き、ＴＡＡＡとして実現できる支援活動を行おう。

２．　反アパルトヘイトの闘いをしてきた人たちや新しい社会の建設に貢献している人たちの業績、尽力、辛酸、奉仕の精神に対し、常に尊敬の念を持ち、友情と信頼関係を築いて行こう。

３．　人種、性別、出身地、信条、職業等においての差別的発言や態度はとっていないだろうかと常に自戒の念を持ちながら、より良いコミュニケーションを築くことができるように活動を行おう。

４．　南アの人たちが一人一人平等な機会を得て、仕事をし、充実した人生を生きていけるよう、私たちは『草の根レベル』で共に考え、彼らの条件の向上と発展のために協力していこう。

５．　継続することに価値を置き、ＴＡＡＡとして無理のない可能な活動を続けていこう。

６．　支援する上で、必ずしも効率性や規模の発展性を最優先とせず、現地の必要度、信頼関係、支援の意識、将来性、持続性など様々な要素を考慮して判断し、行動しよう。

７．　現地の活動の進行状況に関しては、こちらでむやみに批判、干渉、強制するような行動や態度は避け、相手方の立場や事情を考慮し、必要であれば話し合って協力しよう。

８．　私たち自身も、活動を楽しむ、活動を通して自分自身を成長させて行こうという暖かい心を持って、活動しよう。

TAAAの活動規範作成について

お陰様で TAAA も今年で14年目を迎えることになりました。この間、活動内容も進展、変化し、また新しい会員も増えました。今まで、「何か国際協力がしたい」「アパルトヘイト後の南アを支えたい」「図書活動を促進させたい」など、様々な考えの人たちが集まってきましたが、「人間としてどう生きるか、どう世の中と接するか」という根底にあるものが、皆似通っているのでは、という漠然とした認識に基づいて、私たちは活動を進めてきたのだと思います。今後、南アも変化、発展し、それにつれて TAAA の活動内容も変わっていくでしょう。様々な考えや世界観をもつ方々が新しく会員になり TAAA をリードしてくれることと思います。このように TAAA の今後を考えたとき、多様性のなかにも TAAA のバックボーンとなる考え方は会員間で共有しておきたいという思いから、この度 TAAA 規範を作りました。（久我祐子）

◆　主な活動（2005年9月20日～2006年1月15日）　*下線は南アにおける活動*

9/20 野田興風図書館訪問　浅見克則
9/20 南アからの礼状、ブログへのせる　近藤信幸
9/24 セントメリーインターナショナルスクールより本引取り　浅見
9/27 蓮沼忠さん南アから帰国
9/28 南ア大使館藤森さん送別会　野田千香子　西村裕子
9/29 KZN州NGO・ELETにて会議　平林薫
10/2 作業と会議　西村　野田　関根章博　安部弥生　下谷房道　武藤豊
9/30～10/11 会報39号編集　野田
10/3 打ち合せ会議　野田　浅見
10/7 ELETにて会議　平林
10/8 蓮沼忠さんと会議　浅見　野田　久我祐子　西村
10/12 仮ナンバー申請　浅見
10/11 会報校正　西村
10/11 「ほっとけない」賛同団体会議　関根
10/14 泉南市図書館車引取り　浅見
10/15 仮ナンバー返却　浅見
10/16 報告と会議(蓮沼さん参加)　武藤　西村　丸岡晶　関根　野田　下谷　浅見
10/18 寄付お願い文作成印刷　西村　野田
10/26 会報39号発送作業　安部　野田
10/26 会報をホームページにアップ　近藤
10/26 野田市の車輸出抹消登録　浅見
11/2 仮ナンバー申請　浅見
11/3 会議　浅見　野田
11/5 泉南市の車を工場から駐車場へ　鎌ヶ谷市の車を作業場へ　浅見
11/5～６ JICA草の根無償支援研修　武藤
11/6 作業と会議　西村　浅見　島田勝　野田
11/7 仮ナンバー返却　浅見
11/9 ELETにて会議　平林
11/10 「ほっとけない」賛同団体会議　野田
11/10 宇都宮市の車、輸出抹消登録　浅見
11/14～17 JICAプロジェクト学校訪問　平林
11/13 三つ折パンフ更新　西村
11/15 ＪＶＣ津山直子さん帰国報告会　野田　武藤　蓮沼さん
11/18 瑞浪市の車輸出抹消登録　浅見
11/18 ELITS移動図書館車巡回学校を訪問　平林
11/21 日本中近東アフリカ婦人会バザーへ　野田　安部　大井幸子
11/22 蓮沼さん、南アへ戻る
11/23～25 JICAプロジェクト学校訪問　平林
11/25 東御市の車輸出抹消登録　浅見
11/30 蓮沼さん、南ア教育省のMasekoと打ち合せ
11/24 三つ折パンフ印刷　西村　野田
12/1 ELETと会議　平林
12/1,7,13 美浦中学にて南ア活動報告講演　武藤
12/2 KZN教育省と4台引渡し式打ち合せ　蓮沼さん　平林
12/3 12/4 「ほっとけない」新都心で展示　西村　野田　下谷　武藤　梶村佐喜江　安部　浅見　西村義行さん
12/5 ELET農業プロジェクト校へ井戸の視察　平林
12/5 蓮沼さん、フリーステート州へソニー・オーストラリアの本を寄贈。同州の移動図書館予定を確認。
12/5　住所ラベル更新　西村
12/9 ELETにて会議　平林
12/10 蓮沼さん、ハウテン州図書情報部長と会議
12/11 作業と会議　忘年会　浅見　西村　野田　武藤　加賀谷史紀子　関根
12/13 ELETにてクリスマス会　平林
12/14 報告会案内リリース　丸岡　野田
12/16日本へ一時帰国　平林
12/19 鎌ヶ谷市の車輸出抹消登録　浅見
12/21 JICA草の根説明会　平林　安部　武藤　野田
12/22 仮ナンバー申請　浅見
12/23 アフリカ日本協議会　忘年会　平林　野田
12/26 車4台、港へ搬入　浅見　北爪　関根　武藤
12/27 仮ナンバー返却　浅見
12/31 移動図書館車4台ＫＺＮ州へ出港
12/31 ＨＰ設定更新　近藤
1/7 JICA南ア事務所長下村さんとの懇談会　平林　野田　武藤
1/9 ＴＡＡＡ南ア帰国報告会　講師　平林　報告会にて「ＴＡＡＡ活動規範」と平林がTAAA南ア事務所代表となることを発表　新年会
1/11 JICA 草の根支援学校菜園プロジェクト提案をJICAで打ち合せ会議　平林　武藤　野田

ルイボスティのご紹介

南アだけで取れる健康茶ルイボスティをご購入いただきますと、売上の一部がTAAAに寄付されます。
1箱　80パック　2000円(送料一律500円)
(5箱以上　送料無料)
1パックでヤカン一杯のお茶が飲めます。
お申込みはP12のTAAA連絡先へ